

# 「小中合同 冬の研究交流学習会」まとめ

平成23年1月11日

## 1. 研究発表について

### ①小学校研究発表

附属札幌小 岡田 一伸 先生

研究のスタート

→言語活動を通して指導事項を指導する  
子どもたちの状況をとらえ、指導に生かす  
具体的にはどうしたらよいか

- 学習に「自分」を位置付ける
- 伝え合うべきは「根拠」
- 目的・意図の明確な言語活動を

授業づくりのポイント

『大造じいさんとガン』  
「一人一人に判断を問う」  
「互いの根拠を問題とする」

→ 自分の考えをもてる子が増えた  
自尊心の高まりが期待できた

『雪わたり』  
「討論」を「読むこと」の学習に位置付ける。

具体的には

### ②中学校研究発表

附属札幌中 上田 浩嗣 先生

当たり前のことを当たり前にする  
教師の意識をしっかりともつ

- 生徒が学ぶ目的を明確にできる授業
- 系統性を意識した授業
- 言語活動と指導事項が結び付いた授業

『オツベルと象』

宮沢賢治の人柄をレポートに  
まとめて仲間を紹介する

→ そのために  
・好きな宮沢作品を比べ読みする。  
・一人一人が自ら詳細な読みをする。

「レポートを仲間に説明する」という活動を設定した。

目的が明確に→自分から読みに向かう→表現する活動へ

## 2. 講演 「新しい国語教育の指導と評価」

講師 文部科学省初等中等教育局主任視学官 田中 孝一 氏

- 先生が子供としっかりと向き合うこと →学習内容・指導内容がしっかりと身に付くように  
言語活動・系統性も踏まえて
- 新学習指導要領の語彙の定義を読み解く→解説をしっかりと読んで

### ①語彙量調査について

「季節・時間」にかかわる語彙→日常の学校生活の中で増やす工夫を！

- ・旧暦ののっている日めくりを教室に
- ・俳句・和歌など古典とのかかわりを  
→古今和歌集、枕草子

そうすることで

- ・北海道と本州との感覚のギャップを楽しむ
- ・「言葉を知っていること」と「概念」を結び付ける

さらに、各教科で扱う大事な語句の概念形成をしていく

## ②研究発表について

「言語活動を充実すること」自体が**目的ではない**。

「言語活動」について以下の3点を共通認識してほしい。

<p>(1) 言語活動はあくまでも 学習活動である。 →指導者が授業の目標を達成するために必要と判断し、意図的・計画的に設定するものである。</p>	<p>(2) 言語活動を通して 指導事項を指導する。 →言語活動は手立てである。よって、既習事項としてある程度できていることでなければ取り入れられない。</p>	<p>(3) 1時間、1単元の中で いろいろな言語活動をする。 →中心的な言語活動はあるが、いろいろな言語活動を総合して、ねらいに迫るようにする。</p>
--	--	---

Ex. 「人物の生き方について、話し合ってみよう」

「話し合い」という言語活動は、何をねらい、どんな力を付けたいかが大切。

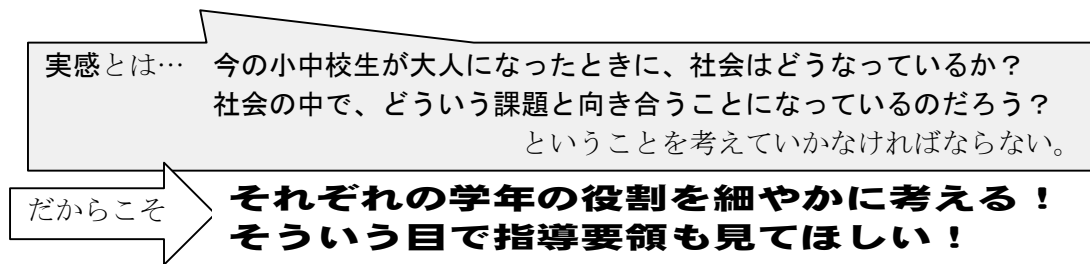
何のために、その言語活動を行うのかという目的をはっきりさせてほしい。

## ③はじめに「2030年の社会」

朝日新聞 12/26 朝刊「孤族の国の私たち」

→社会の形が変わってきている＝たった一人の世帯が増えている＝家族から孤族へ

新しい教育課程に**実感**をもって取り組んでほしい！



## ④新教育課程の勘所

- ・児童生徒が大人になったら、どういう社会・時代の中で生きていくかを具体的にイメージする
- ・生きる力を育成すること
- ・義務教育の質を保障すること
- ・各教科等で言語活動を充実させること

## ⑤学習評価の改善

- ・評価の観点など、用語としては基本的に変わらない

## ⑥常用漢字表の改定

- ・1,945字→2,136字
- ・29年ぶりの改定である。前書きの文章を読み、常用漢字表について勉強してほしい。

## ⑦PISA調査の結果

- ・平均得点が前回より大幅に上昇した
- ・文部科学大臣のコメント→今後も一層、学力向上に向けて、努力してほしい。

【田中主任視学官の講演で学んだこと】言語活動はアイデア勝負、いかに充実させ、授業の中に取り入れるかばかりを考えていましたが、それ自体が目的ではないというメッセージが強烈に響きました。また、今の子どもたちが大人になってから生きる社会を思い描くことで、その子たちに身に付けなければならない力が見えてくる、という視点も全く自分にはありませんでした。今とは全く違った社会を生きる子どもたちを育てる私たちの責任は重いと改めて痛感しました。新しい教育課程・授業づくりの中で、少しずつ考えていきたいと思えます。（伏見小 伊藤 猛）